

第4回 まちづくり評価報告書

平成27年3月
美唄未来会議

目 次

＜参考＞ 美唄市の事務事業評価システムについて	1
＜参考＞ まちづくり評価のサイクル	2
第4回まちづくり評価の進め方	3
評価ランク集計表	4
1 人と情報が行き交いにぎわいが生まれるまちづくり	
（1）産業づくり （農商工連携、農業振興、商工業振興）	5
（2）にぎわいづくり （観光・交流、公共交通、情報化推進）	7
2 人と文化を育み交流が広がるまちづくり	
（3）人づくり （子育て支援、学校教育、芸術・文化・生涯学習、男女共同参画、平和施策）	10
3 豊かな景観あふれるエコロジーなまちづくり	
（4）環境づくり （自然保護、環境行動、ごみ処理）	13
（5）うるおいづくり （都市基盤整備、景観・緑づくり）	15
4 誰もが健康でいきいきと暮らせるまちづくり	

(6) 健康づくり	17
(保健、地域医療)	

(7) 福祉のまちづくり	19
(障がい者福祉、高齢者福祉)	

5 安全で安心して住めるまちづくり

(8) 安全づくり	21
(防災・防犯・交通安全、消防)	

(9) 安心づくり	23
(消費者保護、雇用対策、コミュニティ)	

6 みんなで力を合わせるまちづくり

(10) 地域経営の確立	25
(協働のまちづくり)	

◎主な自由記述	27
-------------------	----

< 参考 >

美唄未来会議委員名簿

美唄市の事務事業評価システムについて

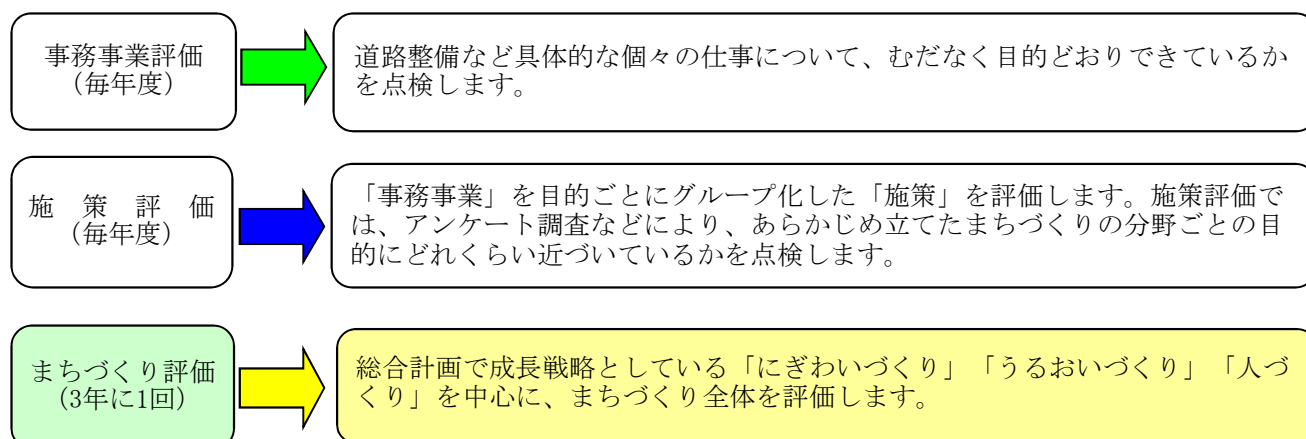
美唄市の事務事業評価システムは、美唄21世紀まちづくりプラン（第5期美唄市総合計画）前期基本計画を推進管理する手法として、平成13年度から導入し、これまで実施してきました。

このシステムは、市が行った仕事について、どのような効果があったかを測るため、市民の視点による「モノサシ」として成果指標を設定し、PDCA（Plan（計画）・Do（実施）・Check（評価）・Action（見直し））のサイクルの中で評価、点検し、その結果を次の仕事に生かすためのしくみです。

評価システムの構成としては、市の事務事業を個別に評価する「事務事業評価」、事務事業を目的ごとにまとめた施策に対する「施策評価」のほか、総合計画の都市像や方向性など、まちづくり全体を評価する「まちづくり評価」となっています。

このように、本市は、「事務事業評価」「施策評価」「まちづくり評価」の3階層による評価システムを採っており、「事務事業評価」と「施策評価」は市による内部評価として毎年度、「まちづくり評価」は外部評価（市民評価）として3年に1回実施しています。

<美唄市の事務事業評価システム>

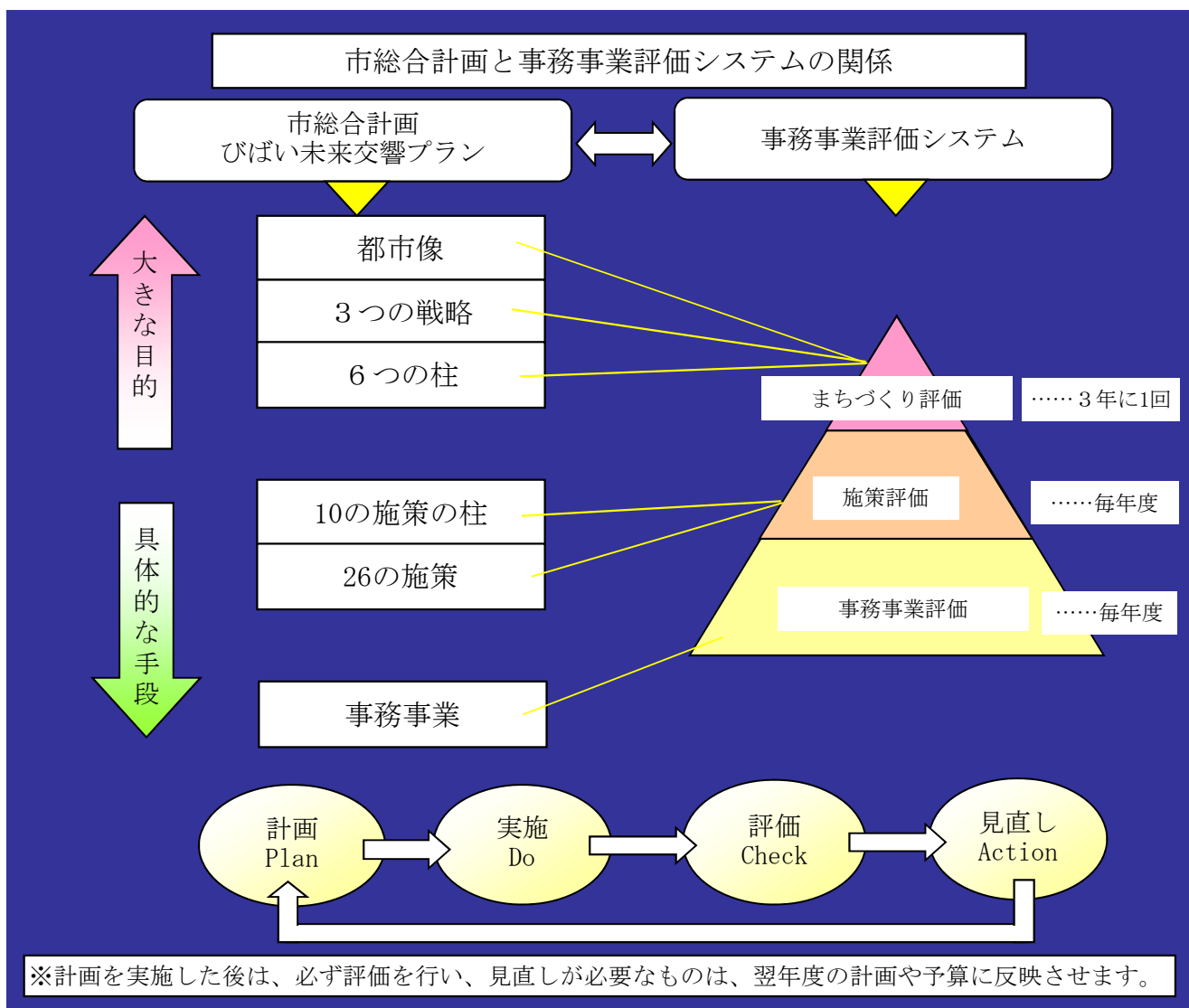
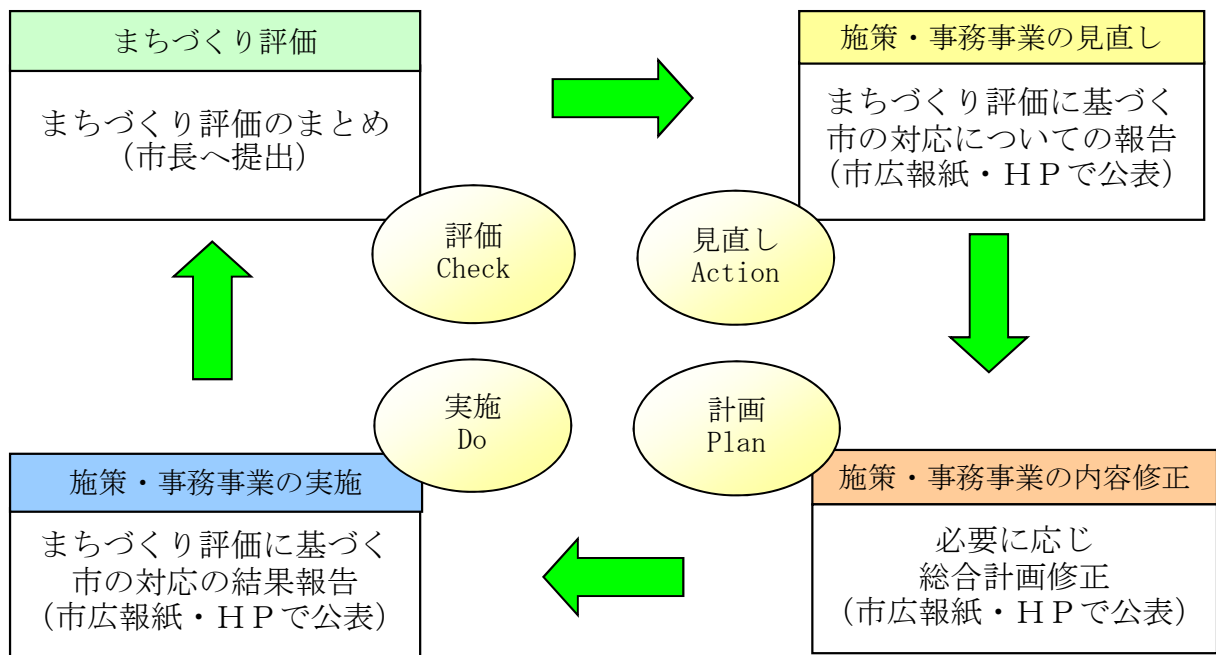


<参考> まちづくり評価のサイクル

まちづくり評価は、ムダなく 住みよいまちづくりができているかを市民の視点で確認するため行うもので、いわば「市の通信簿」です。数字（指標）や他市との比較でまちづくりが計画どおり進んでいるか、あるいはまちづくりの方向が、市民ニーズや社会経済情勢、時代状況と合っているかなどをチェックします。

まちづくり評価は、評価が出された後で、市がそれを受けて、どう取り組むのか（まちづくり評価に対する今後の取組報告）、取り組んだ結果どのように実施されたか（まちづくり評価取組結果報告）を取りまとめて市民公表することとなっており、市が評価を受けて美唄のまちづくりにどう取り組んだかが見えるしくみとなっています。

<まちづくり評価のサイクル>



第4回まちづくり評価の進め方

びばい未来交響プラン（第6期美唄市総合計画）の3つの戦略である「にぎわいづくり」「うるおいづくり」「人づくり」の各分野を中心に、まちづくり全体について評価をしました。

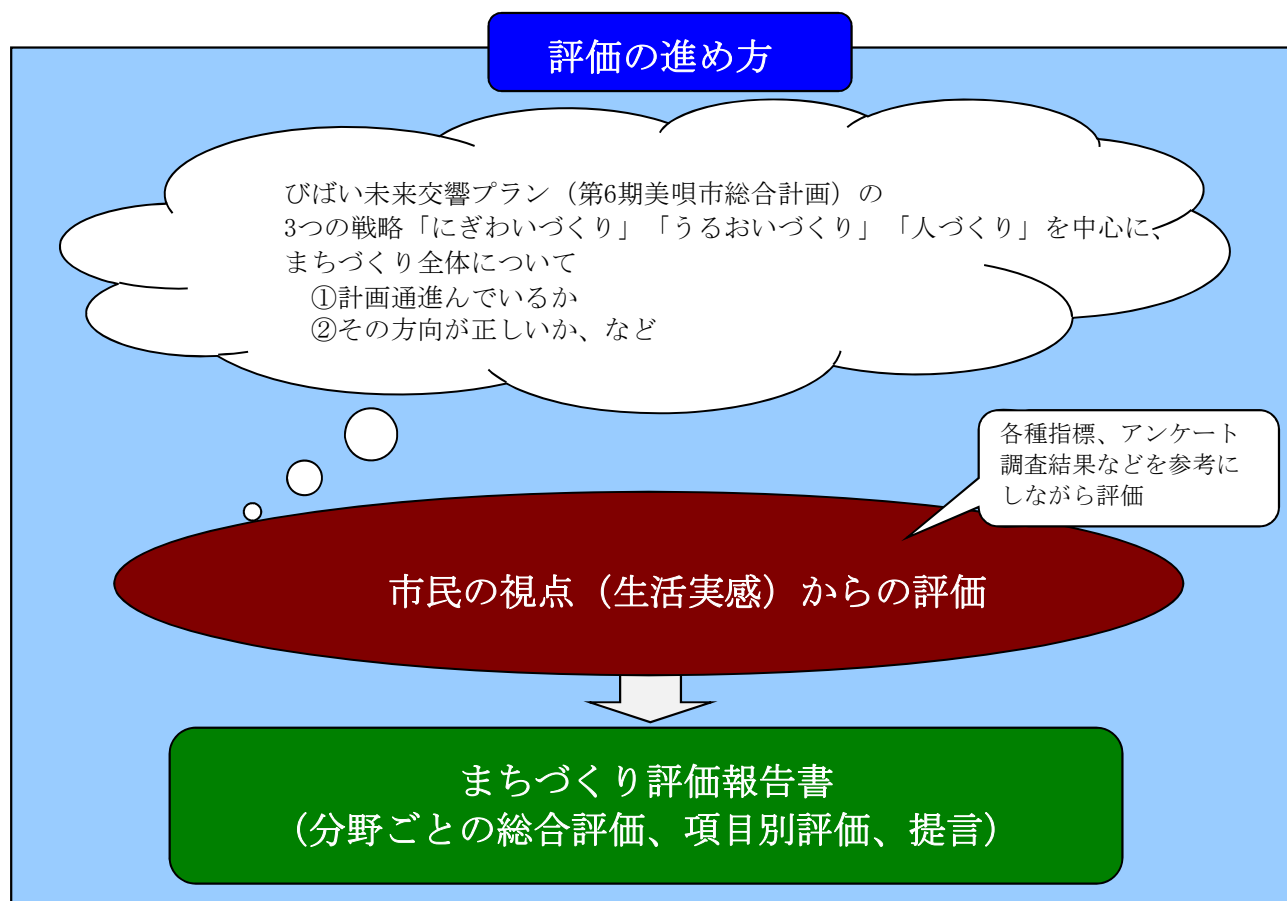
総合評価は、次の5段階の評価とし、分野ごとに、総括的な説明をつけました。

また、総合評価に至った根拠として、評価に参加した美唄未来会議の各委員の評価の集計結果と評価の状況（5段階評価のランキングとその理由）を掲載しました。

なお、今回のまちづくり評価においては、評価に基づいた市に対する「提言」は行わないこととし、「提言」に関しては、美唄未来会議から市長へ提出する第6期美唄市総合計画（後期基本計画）に関する最終提言書に一括整理することとしました。

【総合評価のランク】

A：よくできている	★★★★★
B：割とできている	★★★★
C：普通（可もなし、不可もなし）	★★★
D：あまりできていない	★★
E：できていない	★



評価ランク集計表

3つの戦略	6つの柱・10の施策の柱	評価ランク
にぎわいづくり・うるおいづくり・人づくり	1 人と情報が行き交いにぎわいが生まれるまちづくり	C
	(1) 産業づくり (農商工連携、農業振興、商工業振興)	C
	(2) にぎわいづくり (観光・交流、公共交通、情報化推進)	C
	2 人と文化を育み交流が広がるまちづくり	C
	(3) 人づくり (子育て支援、学校教育、芸術・文化・生涯学習、男女共同参画、平和施策)	C
	3 豊かな景観あふれるエコロジーなまちづくり	B
	(4) 環境づくり (自然保護、環境行動、ごみ処理)	B
	(5) うるおいづくり (都市基盤整備、景観・緑づくり)	C
	4 誰もが健康でいきいきと暮らせるまちづくり	C
	(6) 健康づくり (保健、地域医療)	B
	(7) 福祉のまちづくり (障がい者福祉、高齢者福祉)	C
	5 安全で安心して住めるまちづくり	B
	(8) 安全づくり (防災・防犯・交通安全、消防)	B
	(9) 安心づくり (消費者保護、雇用対策、コミュニティ)	B
	6 みんなで力を合わせるまちづくり	C
	(10) 地域経営の確立 (協働のまちづくり)	C

都市像「食・農・アートが響き合う 緑のまち 美唄」
市民のハーモニーで創る 美しき唄のまちを目指して

3つの戦略
にぎわいづくり・うるおいづくり・人づくり

1 人と情報が行き交いにぎわいが生まれるまちづくり
(1) 産業づくり（農商工連携、農業振興、商工業振興）

■総合評価 C ★★★

総括的コメント

農商工連携については、取組の方向性と成果はおおむね適正であるとの意見がある一方、商品のPRや販売戦略などの取組を更に進めてほしいという意見がありました。

農業振興については、農業者に対する市の農業施策は十分とする意見がある中、今後は、農業経営の安定化を図るため、農業者の後継者不足、農産物の販路拡大、美唄特有の農産物や農業生産手法の確立などを望む意見がありました。

商工業振興については、雪エネルギーの活用の取組を更に進めてほしいとする意見のほか、商店街のにぎわいが不足しており、中心市街地を活性化させる施策を推進してほしいという意見がありました。

<各委員の評価の集計結果>

施策区分等 \ 評価区分	A	B	C	D	E	F	合計
総合評価	1	16	21	8	1	1	48
農商工連携	1	7	6	1	1	0	16
農業振興	0	5	8	2	0	1	16
商工業振興	0	4	7	5	0	0	16

<各委員の評価の状況>

◎農商工連携

評価	理 由
A	少ない予算の中で大きな実績を上げている。商品化するまでの各プロセス(食品衛生法、成分分析、試作の回し、告知方法、原価分析など)のノウハウを担当者が試行錯誤の中で取得したことが市役所の価値と思い、他との相対で最高評価とした。
B	色々な取組の説明を受けて進捗状況が理解できた。今後は、実際に目に見える成果が見えてきてほしい。
B	施策評価表の各指標の達成度が高いため。
B	方向性が適正であると感じられるため。
B	施策評価表の成果指標は達成されているが、更なる活性化が必要な部分だと感じた。
B	施策評価表の成果指標は達成されているが、商品化されたものがどこで購入できるか知らない市民もいるため、市民への周知が必要だと思う。
B	コメントなし(2件)
C	推進しているが、まだまだできることがあるように感じる。公平性を持ちつつ、尖らせる(進んでいる)ところにも力を注ぐなど、これまでの行政の垣根を少し超えた手法が必要。
C	市として農商工の連携を図るために施策を施しているのはよく理解できた。
C	施策評価表の達成度はOKだが、その後のフォローアップに疑問あり。
C	横の連携不足。商品PR不足。
C	コメントなし(2件)
D	農・商・工が活発に交流しているとは思えない。まずは交流の場を作ることが先決と思う。
E	コメントなし

◎農業振興

評価	理 由
B	委員の中に農協から来ている方の意見で、他市町村と比較すると美唄市は力を入れている方だという話があったため。
B	農業者に対する施策は充分だと思う。他地域にはない美唄特有の農産物や農業生産手法などを考えたらよいのでは。
B	農業を基幹産業として位置づけており、他市町村よりも手厚い支援を行っている。
B	できていると思うが、今後の後継者のことに不安がある。
B	コメントなし(1件)
C	インフラ整備中心に感じた。安定経営のためには、収益率向上、販売拡大が今後必要。農業振興は基盤産業なので、インフラ整備が大切だが、この先の経済情勢など予想して、海外へ販売するためのノウハウを商社等と勉強会を開催する等して、販路拡大に注視していただきたい。
C	計画途中であり、現時点での達成度を見て判断した。
C	施策評価表の目標値から施策を判断しにくい。
C	必要な補助事業が必要な分行われているという現状だと思う。
C	施策評価表の成果指標が達成できるような取組が必要だと思う。
C	コメントなし(3件)
D	農業経営の安定化不足。
D	コメントなし(1件)
F	事業費は非常に大きな金額だが、内容を1時間程度で理解するには無理がある。

◎商工業振興

評価	理 由
B	目標値より下回る達成度から事業での良悪が難しい。
B	ホワイトデータセンター構想の実現に期待する。
B	コメントなし(2件)
C	中心市街地を活性化させるための施策をもっと行ってほしい。
C	販わい創出や企業活動もある程度推進していると感じる。雪エネルギー活用も含め、食のまちとして食品加工や製造関係の企業誘致推進など、他地域と差別化した取組に力を入れる活動が大事。
C	企業誘致など努力されているが、結果に現れていない。
C	施策評価表の成果指標が達成できるような取組が必要だと思う。
C	コメントなし(3件)
D	雪冷熱エネルギー以外は、特に商業系はお手上げ状態に感じた。
D	成果指標は進捗があるものの、関連指標が進んでいないため。
D	美唄市外に比べて全体的に価格が高い。しかも「価格が高い＝品質が良い」ではないため更に残念な結果に。「高価で低品質」を回避するため市外で買う。
D	難しい問題ではあるが、達成できるよう施策の見直しが必要である。
D	市内商店街の販わい不足。

(2) にぎわいづくり（観光・交流、公共交通、情報化推進）

■総合評価 C ★★★

総括的コメント

観光・交流については、市の観光PRはホームページやポータルサイトなどを活用し、積極的に行われているとの意見がある一方、アルテピアッツァ美唄や宮島沼以外の新たな観光や他地域にない特色あるイベント、施設等の環境整備などを進め、交流人口を増加させる必要があるとの意見がありました。

公共交通については、高齢者の買物や通院などへの対応から、市民バスや乗合タクシーの取組は継続してほしいという意見が多くありました。

情報化推進については、ホームページやポータルサイトなど情報の発信が行われており、今後は、高齢者などのパソコンを使用していない世帯への情報の提供方法などを検討する必要があるとの意見がありました。

<各委員の評価の集計結果>

施策区分等 \ 評価区分	A	B	C	D	E	F	合計
総合評価	3	27	37	9	1	1	78
観光・交流	0	6	8	2	0	0	16
公共交通	1	4	9	2	0	0	16
情報化推進	2	17	20	5	1	1	46

<各委員の評価の状況>

◎観光・交流

評価	理 由
B	美唄市の観光PR（ホームページ、ポータルサイトPiPaを使ったPR、サイクリングツアー客の誘致など）積極的に行っていると思う。移住人口も増えているようなので、引き続き観光をPRしてほしい。
B	入込客数は横ばいだが、リピーターを期待できる観光が少ない中、健闘している。
B	観光PR活動の増加や移住・定住の成果も出ているため。
B	施策評価表の達成度と施策の成果が直結しにくく感じる。
B	移住に関しては、美唄市の税や公共料金など総合的に条件が厳しい。観光PRはがんばっているのでは。
B	コメントなし(1件)
C	観光の発信は推進していると感じる。交流拠点施設の増加や交流人口を増加させるためのイベント手法(他地域にはない全国から集まるまつりなど)を考え、宿泊施設などの環境整備を進めると良いのでは。
C	農業体験など新たな取組の検討を願いたい。
C	アルテや宮島沼以外の観光を模索してみてもいいのでは。
C	市外からの来訪者増への対応不足。
C	ホームページアクセス数や観光PR活動など目標値を上回っているが、PR活動の検証などから、観光入込客数の増加につながる取組が必要だと思う。
C	コメントなし(3件)
D	移住・定住促進事業について近隣市町村に見劣りするのでは。
D	コメントなし(1件)

◎公共交通

評価	理 由
A	少ない予算の中ではがんばっていると思う。
B	市民バスの見直しや集合タクシーの利用が向上し、市民満足度が高まっているため。
B	事業から達成度を上げることだけを目指にできないため、評価しにくい。
B	現状、常に見直しが必要な状況なので、今後とも協議会での検討を断続してほしい。
B	コメントなし(1件)
C	財政的にも厳しいとは思いますが、市民の交通手段を守るため、最低限の公共交通は確保してほしい。
C	高齢者が免許返上できるよう、バスとタクシーの融合で利便性向上・効率化を図る必要がある。
C	市の財政規模的にある程度進められているように感じる。高齢化に伴い買物や通院などの対応を更に考える必要がある。
C	高齢化社会を迎え、公共交通機関の確保は重要と考える。事業の継続・拡大を望む。
C	バス運行の採算面について解決できるように検討してほしい。
C	人口減少により利用者が減少傾向にあるが、今後も利用しやすいルートや時間帯の設定を検討し、経費の抑制を図りながら実施することが必要だと思う。
C	コメントなし(3件)
D	買い物難民対策(無料送迎バス等)。
D	コメントなし(1件)

◎情報化推進

評価	理 由
A	施策評価表の成果指標が達成されているため。
A	コメントなし(1件)
B	ホームページやポータルサイトなど情報発信は行われていると思う。今後もわかりやすく丁寧な情報発信を行ってほしい。
B	光回線普及率は目標を大きく上回り、ホームページのアクセス件数が伸びているものの、目標値に対しては低い状態となっているため。
B	ほぼ全ての地域に光回線を提供できている。手続の電子申請も可能なものは達成済である。
B	ホームページがとても見やすく、わかりやすくなった。
B	今後もわかりやすい情報の提供に期待する。
B	最先端の技術等に取り込もうという姿勢をみて本評価とした。光回線は確かに普及してきたが、どうしても地域格差や場所による運・不運で未開通の地区に不公平感はあると思う。携帯電話会社によるLTE等、光回線以外の環境も普及してきていることから、時代に合わせて例えば光回線の代わりとなる計画に置き換えることで全市的な情報化推進につなげる等柔軟な対応を検討してもよいのではと感じた。
B	光回線が普及するなど、情報基盤はほぼ整備されつつあり、今後は市の公式ホームページの内容が一層充実されることを期待する。
B	より多くの人々がサービスを活用できるよう、今後も一層進捗していければ良い。
B	計画が順調に進んでいるように感じた。
B	市ホームページ、フェイスブックをこまめに実施し、目標値に達してはいないが、アクセス数も増加傾向にある。
B	インフラ整備に努力しているが、情報の発信については改善できると思う。
B	コメントなし(6件)

C	市の財政規模的にある程度進められているように感じる。
C	達成度を上げるために必要な取組があると感じられるため。
C	パソコンを使用していない家庭も数多くあると思うので、メロディー等の情報紙をもっと充実させてほしい。
C	電子申請の拡大・推進。
C	フェイスブックの活用などやっているの。
C	商店街に活気があまり感じられないが、イベントなどで協働でまちを盛り立てようとしている。
C	特にお年寄などが簡単に利用できるサイトにはまだなっていない。市のＨＰの改訂と誰もが利用できる端末への備えが大切ではないか。
C	どこの市町村も同様に推進している。
C	高齢化の進む本市において浸透しているのかを問わず、淡々と進んでいる印象。
C	市の情報はフェイスブック等ネットなども駆使して広められているが、特定のユーザーに偏り、全ての市民が活用しているものではなく、また、裾野を広げるような活動も活発ではないため。
C	公式ホームページの年間アクセス数が62.8%のため。
C	高齢化が進んでいる中、インターネット環境を整備してもそれを活用できるとは限らないので、そういった方々への情報提供方法も同時に検討すべき。
C	コメントなし(8件)
D	取組の内容が市民に理解されていないと思う。特に高齢者が利用できるシステムの構築が必要。
D	市のＨＰアクセス件数の未達成(ＨＰの完成度が低い)、電子申請手続数の未達成。
D	市ＨＰがわかりづらく、また、情報発信が弱い。もっとわかりやすく、探しやすいＨＰにしてほしい。
D	コメントなし(2件)
E	広報紙をはじめ、様々なものを紙から脱却させ、動画などを活用する方向へ移行しては。
F	コメントなし(1件)

2 人と文化を育み交流が広がるまちづくり

(3) 人づくり（子育て支援、学校教育、芸術・文化・生涯学習、男女共同参画、平和施策）

■総合評価 C ★★★

総括的コメント

子育て支援については、市民アンケートの結果から、子育てしやすいと思っている市民の割合は低く、子育て支援センターの役割や機能、未満児保育の受入態勢などを市民との協働で高めていく必要があるとの意見がありました。

学校教育については、農業体験学習など地域性を生かした教育は良いものの、学力を伸ばす取組が必要であるとの意見がありました。

芸術・文化・生涯学習については、市民が芸術・文化に触れられる機会が多くあり、こうしたものを基軸としたまちづくりを、もっと進めるべきであるという意見がありました。

男女共同参画については、男女が平等という考え方が市民に浸透してきており、市の審議会等への女性登用を更に進めるべきとの意見がありました。

平和施策については、平和祈念行事に継続して取り組むことを望む意見がありました。

<各委員の評価の集計結果>

施策区分	評価区分	A	B	C	D	E	F	合計
総合評価		4	24	32	15	0	2	77
子育て支援		0	5	6	5	0	0	16
学校教育		0	6	5	4	0	0	15
芸術・文化・生涯学習		2	6	6	1	0	0	15
男女共同参画		1	3	8	3	0	1	16
平和施策		1	4	7	2	0	1	15

<各委員の評価の状況>

◎子育て支援

評価	理 由
B	保育環境をよりよいものにするため、ワーキングチームの立ち上げをし、保護者の声も取り入れながら進めていることが良いと感じた。今後は「子育てしやすいまち」とより多くの市民の方に思ってもらえるよう取組を推進していきたい。
B	子育て支援センターの活動や未就学児の医療費全額無料化など、子育てしやすい環境が徐々に整ってきていると思う。
B	コメントなし(3件)
C	美唄らしさがわかる子育て支援のメニューが重要と思われる。
C	高齢化率が高まる中、高齢者対策予算が増えていくのは必然と思うが、少子対策にも予算を十分に確保していく必要がある。子育て支援の巡回サービスを行うとか、母親が安心できる施策も必要。
C	子育て支援センターの役割、機能を市民との協働で高めるべきである。
C	コメントなし(3件)
D	市民アンケートで子育てしやすいまちの評価が低いことからの反省。
D	未満児保育の受入態勢がまだ十分とは言えない。
D	子育てしやすいと思っている市民の割合が少ない。
D	子育てしやすいと思う市民の割合がまだまだ低いから。
D	指標実績値に反映されているとあり、住民が集まる大切な材料になるのではないかな。

◎学校教育

評価	理 由
B	学級数、児童生徒数が年々減少していく中で、耐震化等必要なことができている。
B	学力向上のプログラムとして、学力・学習状況を踏まえ、習熟度学習の拡充が必要である。
B	農業体験学習など地域性を生かしたものが行われていて良いと思う。
B	コメントなし(3件)
C	取組はすばらしいが、美唄市の学力の差や課題も感じた。現状の分析と今後の方向性について検討が必要。
C	地域格差ではないと思うが、学力の低下が気になる。食農体験学習はとても良いと思う。
C	高齢化率が高まる中、高齢者対策予算が増えていくのは必然と思うが、少子対策にも予算を十分に確保していく必要がある。子育て支援の巡回サービスを行うとか、母親が安心できる施策も必要。
C	「地域に根ざし暮らしに学ぶ」美唄の特色ある教育をもっと進めるべきである。
C	コメントなし(1件)
D	H26全国学力・学習状況調査の数値が平均よりかなり低いため。
D	(学力が全てではないが)学力をもう少し伸ばせるように取り組むべき。
D	データを見ても、学校教育にはまだまだ政策の余地があると考ええる。成果指標の内容は良いのかと思う。
D	全国・全道の学力・学習状況調査結果比較で劣っているのが気になる。

◎芸術・文化・生涯学習

評価	理 由
A	コメントなし(2件)
B	実績値の減は人口の減によるものと考ええる。
B	郷土史料館の活用方法が工夫されていて、利用人数が増加していることが良いと思った。
B	市民が芸術・文化にふれられる機会が多くあって良いと思う。
B	予算が少ない中、よくがんばっているという印象を受けている。
B	施策評価表の成果指標、関連指標ともおおむね良し。
B	コメントなし(1件)
C	スポーツ・文化関係の行事への参加者数から見ると、目標から離れているようにも見えるが、広報やHPで十分にPRされており、興味があれば誰でも参加できる環境にはあると思う。
C	引き続き、市民ニーズに合った事業展開が必要である。
C	美唄の文化を基軸としたまちづくりをもっと進めるべきである。
C	コメントなし(3件)
D	コメントなし(1件)

◎男女共同参画

評価	理 由
A	コメントなし(1件)
B	男女が平等だという考え方が浸透してきているので良いと思う。
B	コメントなし(2件)
C	男女平等と感じている市民の割合は、およそ半分。今後の取組が重要と考える。
C	市民アンケートの回答数が少ないながらも、実績値はまあまあと思う。ただし、設定している目標値が低すぎるのではないか。

C	H27の「男女が平等だと感じている市民の割合」の目標値は低すぎる。このテーマは、日本全体でもまだ難しく、じっくりと腰を落착けてやっていかなければならないと思う。
C	コメントなし(5件)
D	市の審議会等への女性の登用率が低い。
D	市の審議会等への女性登用は積極的に改善すべきである。
D	コメントなし(1件)
F	コメントなし(1件)

◎平和施策

評価	理 由
A	平和祈念行事に継続して取り組んでいる。
B	平和施策を市の総合計画に謳っているところがすばらしいと感じた。
B	最近の情勢に対する市としての意思表示は難しいか。
B	コメントなし(2件)
C	核のない平和な世の中になればいいなと思う。
C	市町村としては、積極的に取り組むような分野ではないと思う。
C	平和イコール核廃絶から身近に起こりうるテロ防止への視点からの施策も求められるのでは。
C	コメントなし(4件)
D	子どもの教育と連携し、推進すべきである。
D	コメントなし(1件)
F	説明を聞いても具体性についてよくわからないといった感じである。しかしながら、「平和」を市の目標に掲げるのは、たいへん良いと思う。

3 豊かな景観あふれるエコロジーなまちづくり
(4) 環境づくり (自然保護、環境行動、ごみ処理)

■総合評価 B ★★★★★

総括的コメント

自然保護については、宮島沼の保全を中心に市民に定着されており、今後とも取組を継続してほしいとの意見がありました。

環境行動については、市民の環境に対する意識は高く、今後ともエコセミナーなどを通じて啓発活動を継続的に実践していくことが望ましいとする意見がありました。

ごみ処理については、市民にごみの分別化が定着されており、ごみの減量化やリサイクルには積極的に取り組まれているものの、不法投棄の問題が改善されておらず、対策が必要との意見が多くありました。

<各委員の評価の集計結果>

施策区分	評価区分	A	B	C	D	E	F	合計
総合評価		12	23	12	3	0	1	51
自然保護		5	8	3	0	0	1	17
環境行動		5	7	4	1	0	0	17
ごみ処理		2	8	5	2	0	0	17

<各委員の評価の状況>

◎自然保護

評価	理 由
A	小学生から高校生で構成する自然戦隊マガレンジャーの活動をはじめとする環境学習はユニークである。宮島沼の環境保全を中心とする市民満足度が85.3%と高い。
A	宮島沼保全については、市民にも定着してきていると思う。
A	市民の環境に対する意識は高い方だと思われるため。
A	平成25年度の市民満足度が85.3%のため。
A	コメントなし(1件)
B	環境保全、自然保護の取組を続けていただきたい。
B	特に宮島沼の浅底化防止には、力を入れてほしい。
B	現状維持を続けることが大切と感じた。
B	宮島沼への関心は年々増加しているが、今後は自然保護、食害問題にも力を入れると良い。
B	コメントなし(4件)
C	宮島沼の環境悪化に対する研究取組等評価できるが、宮島沼に特化している印象があったり、交流人口増のねらいと自然保護の施策が相反するような感じもすることから判断に迷った。
C	宮島沼の環境を維持していくため、地域住民との協力、子どもたちへの環境教育を継続していく。
C	コメントなし(1件)
F	コメントなし(1件)

◎環境行動

評価	理 由
A	エコに対しての意識が高くなっているように感じられる。
A	市民の環境に対する意識は高い方だと思われるため。
A	施策評価表の成果指標が目標値を大きく超えているため。
A	コメントなし(2件)
B	政策課題が抽象的であるが、環境に関する市民の意識は高い。
B	市民が環境に対して、より意識が高まるような方法を見出せば良い。
B	エコセミナー等、周知活動を継続的に実施していくことが望ましい。
B	コメントなし(4件)
C	「行動」という意味でアンケートによる意識調査結果に頼らざるを得ないのだと思うが、例えばLED電灯の普及割合とかエコカー所有状況、信号機のLED化率等のように目に見える指標が示せると、結果的によりイメージしやすく意識向上にもつながるのではと感じた。
C	環境保全の活動に取り組もうとしている市民を支援している。
C	具体的に理解することができなかった。
C	コメントなし(1件)
D	コメントなし(1件)

◎ごみ処理

評価	理 由
A	コメントなし(2件)
B	ごみの分別が定着してきている反面、不法投棄が増えているが、これは捨てる人の意識の低下が問題なので、防止するのは難しいと思う。
B	ごみ減量化、リサイクルに積極的に取組が図られている。
B	簡単でも効果的な方法を探せば、まだあると思う。
B	エコの丘の現状は問題があると思うが、処理施設が完成すれば改善されるもの。
B	ごみの不法投棄減少に向けての啓発活動が不足。
B	新制度について、変更の理由が周知不足に感じた。
B	減量化、再資源化に取り組んでいると思う。
B	コメントなし(1件)
C	単純なゴミの量だけではなく、リサイクルされないゴミの量や、商店等でゴミを出さないための梱包推進状況等を加えてもよいと感じた。
C	ごみの不法投棄をなくすための監視体制の強化徹底が必要である。
C	出前講座を継続してほしい。
C	取り組むべき方向性は問題ないが、不法投棄、ゴミ収集場の問題は改善されていない。
C	不法投棄に関しては難しいらしく、減少に至っていない。
D	生ごみ分別は疑問。
D	努力は分かるが、実施後、たくさんの問題や苦情が出ると思われる。

(5) うるおいづくり（都市基盤整備、景観・緑づくり）

■総合評価 C ★★★

総括的コメント

都市基盤整備については、限られた予算の中ではあるものの、道路の維持補修や雪の多い年の除排雪について、しっかりと対応をしてほしいという意見がありました。

景観・緑づくりについては、コミュニティガーデンの取組など市内において植樹運動や緑化運動を更に広めるため、市民の自主性を促す継続的な運動展開や施策が必要であるとの意見がありました。

＜各委員の評価の集計結果＞

施策区分等 \ 評価区分	A	B	C	D	E	F	合計
総合評価	0	11	10	11	0	1	33
都市基盤整備	0	7	5	4	0	1	17
景観・緑づくり	0	4	5	7	0	0	16

＜各委員の評価の状況＞

◎都市基盤整備

評価	理 由
B	道路舗装率96.2%。下水道普及率92.5%など、人口規模からみて基盤整備は充実しているほうである。
B	限られた経費の中でよくできていると思う。
B	雪の多い年の除排雪が今後の課題と思われる。
B	道路舗装達成率96.2%、下水道普及率92.5%のため。
B	コメントなし(3件)
C	J R美唄駅を中心として都市機能を考えることが満足度につながっていくのか疑問に感じている。美唄駅とその周辺を再開発した結果、建物こそ立派になったものの全体に冷たく寂しくなり、使い勝手が何となく悪くなったような気がしている。駅前バス乗り場の不便さ(列車とバスとの乗り換え移動距離の増、バスターミナル廃止)、コンビニやキオスクの撤退等、雰囲気的に駅に集まりにくい環境に感じる。交通費のことを考えなければ、美唄駅に大半の特急列車が止まることで札幌を意識した利便性は大きく向上したのと感じる。一方で、その反動から、特急バスが廃止に追い込まれたり普通便バスを減便せざるを得ない等、日々の生活に欠かせない市民の足が失われてしまったことで、美唄駅周辺以外の地域に不便さのしわ寄せが生じているような気もする。除雪・排雪は頑張っていると思うが、道によって道路状況に大きな差がみられ、業者の技術にばらつきを感じる。ただ、人手不足という話も伺っているので、夜中に除雪作業をしていただくだけで作業する皆さんには本当に頭が上らない。
C	道路の除排雪技術の維持、人材養成に努める。市道の陥没等も修理していく。
C	目標値は達成できていても、前年度に比べ下がっている数値がある。
C	コメントなし(2件)
D	旧炭鉱地区の都市基盤整備、人口との問題から、手をつけづらいかもしれないが、少し取り残されている感じがする。
D	市民の声が、要望が、事業予算のこともあるだろうが、届いていないと感じる。
D	道路の補修がされず、荒れた道路が目立つ。
D	コメントなし(1件)
F	下水道について過疎地域に整備を広げることに意味があるのか。

◎景観・緑づくり

評価	理 由
B	市民との協働は必要だが、若い人が多い町内会は働いている人も多いので、難しいのではないかなと思う。
B	植樹運動等がより広まれば良い。
B	今後のコミュニティーガーデン数の増加に期待したい。
B	コメントなし(1件)
C	事故がないよう、公園の維持管理を充実させる。
C	コミュニティーガーデンへの助成があるのか。また、住民のつながりづくりといった観点でPRしてほしい。
C	まちなかや一定の場所は素晴らしいと思うが、多くの市外から来る人々が通る12号線は自然を感じるが、美しくはないと思う。目に留まるものがない。
C	コメントなし(2件)
D	緑づくりといいつつ、例えば国道4車線化工事で光珠内の並木が全て伐採されて吹きさらしになったり、客土のために山が崩され丘陵の形が変形している箇所を身近に見ると、どうしても辛口な評価となった。この景観を大事にしようと決めた部分が残っても、それ以外の日常みられた景観が失われてしまうのは何だか寂しい。
D	恵庭市のように花や緑あふれる景観づくりなど、市民の自主性を促すような継続的な運動展開や施策が必要ではないか。
D	市民と市との協働で取り組むことは大事だが、高齢者が多くなった状況から、大きな進展が望めない部分である。
D	森林の適正管理や市民への森林の役割について理解が得られているように思わない。
D	国道の歯抜け商店街は何とかならないか(跡地の利用方法)。
D	市民の理解度を高める施策が乏しい。
D	公園というよりはただの緑地のよう。他市町に比べて魅力的で楽しそうな公園は皆無。

4 誰もが健康でいきいきと暮らせるまちづくり

(6) 健康づくり（保健、地域医療）

■総合評価 B ★★★★★

総括的コメント

保健については、各健診や健康づくりの取組はよく周知されているが、市民の健康への関心を更に高めて行く必要があるとの意見、また、高齢化が進む中で、介護予防に取り組むべきとの意見がありました。

地域医療について、市立美唄病院には、救急医療や透析医療など必要不可欠な機能が保たれているものの、市民がもっと利用しやすい信頼される病院にする必要があるとの意見がありました。また、深刻な医師不足や厳しい経常収支などから、市内の民間病院等を含めて総合病院の在り方を検討するとともに、1次医療やプライマリーケアを中心とした地域医療を推進すべきとする意見もありました。

<各委員の評価の集計結果>

施策区分	評価区分	A	B	C	D	E	F	合計
総合評価		3	12	9	8	0	0	32
保健		2	8	6	0	0	0	16
地域医療		1	4	3	8	0	0	16

<各委員の評価の状況>

◎保健

評価	理 由
A	施策評価表の指標的には達成度が少し低い、行政の取組は評価できる。今後は市民の意識づけだと思う。
A	コメントなし(1件)
B	美唄市の年齢別の人口構成を考えると、自分を健康だと思う市民の割合の数字を上げるのは難しい。
B	小学区単位で地域の健康づくりを推進しており、今後も市民の方と協働のもと、取組を継続していく。
B	各健診や健康づくりは種類も多く、広報などでもよく目にするので、よく周知されていると思う。
B	高齢者対策は充分な対応ができているが、子どもに対しての保健や医療を考えると課題も多いと思う。小児科医の充分な確保とか。
B	市民の健康への関心が高まっていけばいいと思う。
B	コメントなし(3件)
C	特に親子の健康推進に熱意が感じられるから。
C	今後も健康づくりに必要な情報を提供することが必要である。
C	高齢化が進む中で、もっと介護予防に取り組むべき。
C	施策評価表の実績値が下がっている項目が気になるが、引き続き具体性を持って取り組めば、方向性が見えてくると思う。
C	コメントなし(2件)

◎地域医療

評価	理 由
A	コメントなし(1件)
B	病院が市民の方にとってより利用しやすいものとなるよう、これからも検討を進めてほしい。
B	高齢者対策は十分な対応ができていますが、子どもに対しての保健や医療を考えると課題も多いと思う。小児科医の十分な確保とか。
B	施設の老朽化が著しい市立病院は、職員の方々の努力によって一定のレベルを保っていると思う。
B	コメントなし(1件)
C	まだまだ十分とは言えないが、救急医療、透析医療など、必要不可欠な機能については保たれている。
C	1次医療、プライマリーケアを中心とした地域医療づくりをもっと推進すべきで。
C	コメントなし(1件)
D	あまり成果が見えてこない(伝わってこない)。
D	市立病院以外の病院が多いことから、経常収支の改善は厳しい状況である。
D	市でできることには限界があるのかもしれないが、深刻な医師不足や資質の低下など不安定要素が多く、安心して医療を受けられるとは言い難いと思う。
D	信頼される病院づくりに期待している。
D	実現困難な計画でなく、せき損センター含めての総合病院の在り方を考えるべき。
D	医者が少ないので、市民が安心して医療サービスを受けられる環境ではない。
D	コメントなし(2件)

(7) 福祉のまちづくり（障がい者福祉、高齢者福祉）

■総合評価 C ★★★

総括的コメント

障がい者福祉については、すべての障がい者が地域で生活できるよう、美唄のまちの特色として取組を進めてほしいとする意見のほか、障がいがある方の就労に関する取組を進めてほしいという意見がありました。

高齢者福祉については、市民ニーズが高まってくることから、多くの高齢者が生きがいを持って暮らせるよう、介護予防、就労、除排雪、公共交通など様々な取組を継続・検討してほしいという意見がありました。

<各委員の評価の集計結果>

施策区分等 \ 評価区分	A	B	C	D	E	F	合計
総合評価	2	14	14	2	0	0	32
障がい者福祉	1	7	7	1	0	0	16
高齢者福祉	1	7	7	1	0	0	16

<各委員の評価の状況>

◎障がい者福祉

評価	理 由
A	コメントなし(1件)
B	障がいがある方の就労に関する取組を今後も強化してほしい。
B	行政側としてはできている方だと感じる。障がいのある方々は「住みやすい町」と感じているのか。
B	コメントなし(5件)
C	本人も家族もできることに限りがあるので、行政の支援が一層求められてくる。
C	ほぼ全ての障がい者が地域で生活できている。
C	美唄市は「福祉のまち」と言うが、制度が複雑すぎてその人に合った福祉サービスや各種助成制度を総合的に説明できる職員がいないように感じる。
C	障がい者就労が昨今の人手不足解消になる可能性がある。
C	美唄の特色としてもっと推進すべき。
C	障がいのある方も安心して暮らせる市になってほしい。
C	コメントなし(1件)
D	コメントなし(1件)

◎高齢者福祉

評価	理 由
A	コメントなし(1件)
B	今後最も重要になってくるであろう施策の一つ。多くの高齢者が生きがいを持っているのは良いことである。
B	生きがいを持っている高齢者数の割合と自立高齢者数の割合が同じくらいになるのが良い。

B	より元気な高齢者を増やしていく取組を検討してほしい。
B	コメントなし(4件)
C	今後ますます市民のニーズが高まってくるので期待が高い。
C	今後も高齢化が進んでいくと思われるが、この水準でサービスを提供しつづけることが大事だと思う。
C	高齢者の積極的な就労が今後の経済界の下支えとなる。
C	医療と冬期間の除排雪・交通問題など課題が多い。
C	全国に先がけての福祉・保健・医療の連携したシステムを。
C	これからさらに高齢者が増えてくるので、介護予防が大事になってくると思う。
C	コメントなし(1件)
D	コメントなし(1件)

5 安全で安心して住めるまちづくり

(8) 安全づくり（防災・防犯・交通安全、消防）

■総合評価 B ★★★★★

総括的コメント

防災については、自分の身は自分で守るという意識が市民に広まりつつあるが、自主防災組織や高齢者に対する危険予知意識の啓発を更に行ってほしいという意見がありました。また、防犯については、児童が安心して登校できる環境づくり、交通安全については、死亡事故0に向けた啓発についての取組を進めてほしいとの意見がありました。

消防については、火災の発生が抑えられてきている状況にあり、引き続き、火災予防など出火率を下げる取組を進めてほしいという意見がありました。

<各委員の評価の集計結果>

施策区分等 \ 評価区分	A	B	C	D	E	F	合計
総合評価	9	17	4	2	0	0	32
防災・防犯・交通安全	2	9	3	2	0	0	16
消防	7	8	1	0	0	0	16

<各委員の評価の状況>

◎防災・防犯・交通安全

評価	理 由
A	このまちに住んで危険を感じたことがない。
A	コメントなし(1件)
B	最小限にとどめるため、新たに生じた災害被害を分析していき、地道に見直しを継続していく。
B	自主防災組織に「住民どうしのたすけあい」意識への啓発が必要。
B	日頃、高齢者の危険予知意識が少なく、危なく感じるが多々ある。
B	自分たちの身は自分たちで守るという意識が広まってきているように感じる。
B	役所自体の耐震化等不安がある。
B	特に今後児童が安心して登校できる更なる環境づくりを期待したい。
B	事件・事故がないのであれば良いと思う。
B	コメントなし(2件)
C	国道の4車線化工事を行っている箇所では事故が起きたり、光珠内陸橋で痛ましい事故が発生する等、何とか出来なかったのだろうかと思やまれる。一方で、振り込め詐欺等の事前食い止め等、地域で気にしあう取り組み、意識向上がみられている部分もあるのではとみている。
C	意識の向上に力を入れていくことが大事。運転中の事故や死亡事故0に向けた啓発を行う。
C	コメントなし(1件)

D	高齢化が顕著にもかかわらず、施策は以前からの踏襲型で安心安全なまちづくりを目指す意欲や工夫が感じられない。
D	特に目立った成果なし。

◎消防

評価	理 由
A	火災出火率が目標値の1/2と火災の発生が抑えられている。
A	このまちに住んで危険を感じたことがない。
A	年間出火率が目標値の1/2。
A	コメントなし(4件)
B	災害や出動がなければ良いと思う。
B	住宅用火災警報器設置宅の更なる拡大が火災の低減につながると考える。
B	住宅火災報知器の設置も進み、年間出火率も減少していく傾向がみられる。
B	数値の上では、割と優れた達成率であると感じる。
B	救急時に対応するため、更に充実した施策を望んでいる。車両については老朽化のため、いざというとき使えないとのこと。
B	コメントなし(3件)
C	出火率を下げる取り組み、今後も続けて欲しい。農業地帯ということもあるので、農業者等による心無い野焼きや、それが原因の野火対策も継続が必要と思われる。

(9) 安心づくり（消費者保護、雇用対策、コミュニティ）

■総合評価 B ★★★★★

総括的コメント

消費者保護については、市役所にある消費者相談窓口の存在をもっと広く周知し、被害を未然に防ぐ方法を啓発してほしいという意見がありました。

雇用対策については、これまでの取組が大きな雇用の創出につながっていないので、市内に就職できる場所をつくる、求職者と雇用のミスマッチを解消するなど、更に取組を進めるとともに、データセンターや食料備蓄基地の誘致を進めてほしいとする意見がありました。

コミュニティについては、市の取組である地域応援チームの活動について評価する意見があった一方、各町内会や社会福祉協議会をはじめとする各関係機関との連携を深める必要があるとの意見がありました。

<各委員の評価の集計結果>

施策区分等	評価区分	A	B	C	D	E	F	合計
総合評価		9	16	13	5	4	3	50
消費者保護		7	6	2	0	0	2	17
雇用対策		1	2	5	3	4	1	16
コミュニティ		1	8	6	2	0	0	17

<各委員の評価の状況>

◎消費者保護

評価	理 由
B	近年多いオレオレ詐欺など相談件数は多いものの、実際の被害件数はわかっているものではごく少ないということから評価した。
B	消費者相談窓口を知っている市民の割合を増やしたい。
B	困っている人がいなければ良いと思う。
B	美咲消費生活センターの看板はもっと大きく市役所正面にあってもよいような気がする。市役所庁舎内各部署とのバランスもあるかもしれないが、少なくとも法令等に基づき生活に直結する機関は単に案内板に載せるだけでなく、明確に看板を掲げた方がよいと思われる。
B	コメントなし(3件)
C	警察の捜査強化、詐欺に対する罰則強化等の予防策を整備。
C	特に消費者被害防止と関連する市民への周知は数値を伸ばすべきだ。
C	商品券等、補助を行っているが、やはり市外の大型店舗に相当額の消費が流れている状況を考えると、市内は不便であることが伺える。
C	トラブルを未然に防ぐ方法の周知について、もっとわかりやすく。
C	消費者相談窓口の存在を広く市民に知ってもらうよう、もう少しの努力が必要と感じる。
C	コメントなし(1件)
D	市民の相談窓口が消費者協会に頼りすぎ。
D	コメントなし(1件)
F	市内で相談室等を設ける意味があるのか。
F	相談事例に対応した結果や解決内容等が示されなければ評価できない。

◎雇用対策

評価	理 由
A	現在活発に企業を誘致している段階で、データセンターや食料備蓄基地など明るい兆しがある。
B	雇用の場が少ないので、事業推進は大変だと思うが、更に取り組を進めてほしい。
B	コメントなし(1件)
C	目標値に縛られず、さらに促進すべき。
C	難しい問題であると思う。求人側と求職者とのミスマッチは職種や雇用条件等がかみあわないなどがある。
C	今の時代、難しい問題なので、今後の取組に期待したい。
C	現状、大きな雇用の創出にはなっていない感じがする。
C	コメントなし(1件)
D	市内に就職できる場所を充実させる。
D	求職者と雇用のミスマッチが解消しているように感じない。
D	コメントなし(1件)
E	若年者の職業経験を積む場として、シルバー人材センターの活用・連携を考えられないか。
E	専修大学北海道短期大学や北海道中央コンピュータ・カレッジの閉校は、雇用対策の観点からそれぞれの分野で働く人材が確保出来なくなるという意味で明らかにマイナスと判断した。また、市内に福祉施設や福祉関係事業所が増加しているのにそこで働く人材の養成が市内でも近郊自治体でも養成されず、介護人材養成校も入学者数減少で閉校に追い込まれた。IT情報部門や福祉・介護部門の人材が不足する一方で、働きたい人にとっては働く場所が無いと感じてしまう状況になっているのだと思う。雇用主が求める人材と働きたい人の意識のミスマッチが増大しているのではと判断した。国から示された働きながら資格をとったり職業能力を高めるプログラムは、5年前との比較により全市的にもっと積極的に取り組まなければならない状況なのかもしれない。※5年前は専大生も本会議の委員に加わっていました。評価に直接関係しないが、その中に石巻専修大学に進学した方がおり、震災の影響がどうだったのか気がかりである。
E	事業内容が多岐にわたっており、暗中模索の感がある。
E	コメントなし(1件)
F	雇用確保に向けて具体的にどのような取組をしたかが不明。

◎コミュニティ

評価	理 由
A	達成率が高い。
B	地域コミュニティの形成に当たっては、社会福祉協議会の役割が大切である。特に社協と町内会との密接な連携によってコミュニティの形成が図られているように感じられる。
B	高齢者が増えているため、地域の交流は必要不可欠なので、更に広がることを望む。
B	地域の団結力を高めるためにも、コンパクトなまちづくりは必要だと思う。
B	地域応援チームの活動は、大いに評価できる。
B	今後の保健福祉活動にも期待したい。
B	コメントなし(3件)
C	地域活動に参加していない方には、活動に参加したくても出来なかったり、どう参加したらよいのかわからない方がいると思う。考え方の善し悪しは別として、地域活動に参加しないことを選択する市民も当然に尊重すべきかと思う。地域活動にはだれでもいつでも参加していいんだよという観点で、活動している側もいつでも門戸を広く開けていることを広める手段を検討する必要があるのかもしれない。地域にある福祉施設等を核に地域活動を行うことも1つの方法かもしれない。
C	地域応援チーム活動は、環境整備、活動範囲を拡大し、市職員が全員参加するようにする。活動内容をしっかり検討した上、年度初旬に計画を明確にするべき。
C	コメントなし(4件)
D	各関係機関との連携ができていないように感じない。
D	目的、計画は評価するが、市民にいきわたっていないと感じる。

6 みんなで力を合わせるまちづくり
(10) 地域経営の確立（協働のまちづくり）

■総合評価 C ★★★

総括的コメント

協働のしくみは市民に浸透しつつあるものの、各種の事業や制度について市民への周知を更に進めてほしいとする意見がありました。また、サテライト・キャンパス事業については、参加者数が少ない、講義内容が難しいとする意見がある中、事業を継続・拡充してほしいという意見もありました。

＜各委員の評価の集計結果＞

施策区分等	評価区分	A	B	C	D	E	F	合計
総合評価		6	11	18	6	1	2	44
協働のまちづくり		6	11	18	6	1	2	44

＜各委員の評価の状況＞

◎協働のまちづくり

評価	理 由
A	平成25年度時点で達成度が100%を達成されているため。
A	施策評価表の成果指標が達成されているため。
A	施策評価表の目標値を上回る成果指標。
A	まちづくり参画度、サテライトキャンパスの参加者が多い(達成度が高い)。
A	コメントなし(2件)
B	まちづくり参画やサテライトキャンパスなど、協働のまちづくりに向けた取組が行われていると思う。今後は、町内会組織の強化に力を入れてほしい。
B	参加者は少ないようだが、サテライトキャンパスはそれなりの意味があると思う。
B	数値目標も重要であるが、「まちを想う心」を育てることが必要である。
B	サテライトキャンパスは継続・拡充してほしい。
B	地域応援チーム制度は良いと思う。地域が抱えている問題に取り組んでいただきたい。
B	美唄サテライトキャンパスが少しずつ市民に浸透しているのでは。
B	コメントなし(5件)
C	成果指標の目標値の妥当性及び人材育成の結果を明確化する必要がある。
C	会議の中で意見があったように、今後は行政主導型だけでは足りず、市民と協働又は市民が中心となり、本気でまちづくりを進めていく必要があると感じた。
C	サポーター制度など、市民に向けてもっと情報発信してほしい。
C	取り組む人々の温度差の違い。
C	協働のしくみは整えられている。

C	まちづくりに参加する市民がもっと増えればいいなと思う。若い人ももっと参加すべきだと思う。
C	過渡期なのかもしれないが、今現在行われている各種取り組みになかなか目に見える成果がみられていないと思う。しかし、目に見えていないだけであって、とある時点から急に良くなり、いつかは実となるものと感じつつ、期待をしている。
C	サテライトキャンパスに市職員の割合が多いように感じるが、市民の人材育成につながっているのか不明。
C	地域応援チーム制度、美しきまちづくりサポーター制度をもっと有意義で魅力のある制度になるよう環境整備を行う。毎年同じ行事をこなせばいいという制度にならないようにする。
C	サテライトキャンパスの講義内容が難しいように思う。
C	協働にしては市民への周知が行き届いていない事柄が若干多いように感じる。
C	具体的に理解することができなかったため、評価ができない。
C	コメントなし(6件)
D	「市役所任せ」の風潮は、まだまだ根強いのだと思う。
D	本市の現状を考えると達成しているとは思えない。
D	コメントなし(4件)
E	市のまちづくりの方向性が見えない。
F	市民活動が目に見えていないため。サテライトキャンパスを受講した人々のその後の変化もわからない。
F	コメントなし(1件)

主な自由記述

まちづくり評価表の「自由記述」欄にお寄せいただいた主なご意見などを紹介します。
今後のまちづくりの参考とさせていただきます。

No.	ご意見等
1	P D C Aを1年で回すのは長すぎると思う。各施策ごとにP D Aを回し、自分たちの評価・見直し案などのプロセスを含めて最後にCを受けることが必要と思う。足腰の強い市役所になるには、達成率の善し悪しよりも結果の要因分析を中心に、取得した価値や見直し能力向上に注目してノウハウを蓄積し、次へつなげる中で能力向上・人材育成を行うことが大切と思う。
2	市の職員は、自分もすでに行政としてまちづくりに関わっているため、なかなか意見が言いづらいところだが、今後の会議の中では、一市民として意見を述べられるような会議になっていくようお願いしたい。
3	このままでは、美唄市は全ての面で縮小に向かいます。まずは人口減少を食い止めることが先決であり、市役所・市民が知恵を出し合い、まちづくりの方向性を示すことが重要と考える。
4	まちづくりの施策を実行するのために、市民の協力が必要だと思うが、市民が参加しやすい環境を作るよう努力してもらいたい。
5	各施策に関連した又は利用している市民を委員にするべきでは。1時間程度の説明で評価するのは無理がある。
6	美唄市のイベントや特産品。連携協力については現状。①「一番最初の人間にはなりたくない(リスク回避)」ため常に2番煎じ(3番4番〜も)のイベントや特産品。②「他人が儲けていると協力しない(妬み)」、「協力しても上から目線(たいした意味もなく)」、「後から参加・様子見してから参加(その割に文句だけは凄い)」なので、官民の意識改革から始めた方がよいと思う。
7	いま本市を含む地方自治体は、住民のくらしの困難、福祉・医療の危機、地域経済の衰退など、深刻な問題に直面しています。この地方の衰退は、長年に渡る国政によってもたらされたものです。消費税増税と円安誘導による物価高が、くらしと地域経済を直撃しています。福祉・介護・医療への国庫負担の削減は、人手不足や「介護難民」、「医療崩壊」を深刻化させ、保険料などの重い負担を強めています。輸入自由化政策が地方の主要産業である農林水産業や地場産業に打撃を与えています。大店法廃止が身近な商店街をつぶすなど、大企業優先の政治が地域経済を破壊してきました。政府は、このような地方の衰退から「地方創生」を宣伝していますが、見るべき政策はなく、今後も地方の衰退はさけられません。自治体は、地方の問題を国政と併せて検討し、もの申していく必要があります。自治体は、国政の範囲内だけで政策を検討するだけでなく、国政そのものにもコミットメントしていかなければなりません。自治体は、国の悪政を住民のくらしにそのまま持ち込むのではなく、くらし・福祉・子育てを守る「防波堤」の役割を果たさなければなりません。美唄市のまちづくりの諸政策は、基本的に国政の範囲内で策定されています。その意味では、政策の方向性はまずまずのもの(B〜C)になっていると思います。私たちが当面やれることは、政策の方向性に基づいて、一つ一つ施策を具体化することです。予算の関係もあって、施策の具体化が難しいところはありますが、住民、議会、行政が創意工夫を凝らして、まちづくりを発展させなければなりません。現場に目をやると、そこには要求があり、解決のヒントがあります。そこに一歩踏み込んで、施策として具体化する必要があります。問題意識はあるものの、日常のあれこれの仕事に追われ、何となく眺めているというのが現状ではないでしょうか。「小さなことでも、1年間にどのくらい要求を施策として具体化できたか」ということがまちづくりのポイントになるでしょう。できるところから、要求を施策として「具体化」し、「実行」する、そして「成果」を出すことが、住民、議会、行政に求められています。「具体化」「実行」「成果」は、「言うは易く、行うは難し」ですが、「成果」を出すことを目標にすることで、粘り強い取り組みになり、達成感も生まれることでしょう。
8	今後の課題として人口減少社会としっかりと向き合うことが重要である。特に人口減少で行政サービスが低下するのはやむを得ないとの視点から、行政サービスの水準をどこまで下げるとい議論を市民と対話することが必要になると思われる。
9	市民アンケート回答率(回収率)が33.2%しかないのを、これを引き上げられるような工夫が必要である。ネットを利用したり、改修場所を増やしたり、何かいい知恵はないか。
10	まちづくり基本条例、福祉のまちづくり条例等の方向に沿って市政を運営すべき。もっと情報公開、市民と行政の協働を推進すべきである。どのようなまちにしていけるのか、その方向性、考え方がよくわからない。
11	人づくりについて教育の占める割合は大きいと考えている。より具体性を持った施策によって、子どもたちを地域ぐるみで育て、5年、10年先のためにも、まちの活性化に励んでいきたいと考えている。また、奈井江商業高校の取組も参考にしてほしい。
12	若干厳しめな評価をしてしまったかなとも反省している。なお、単に批判することが目的ではなく、今後のためになればという意味で評価したつもりである。前向きにとらえていただければ幸いである。業務の都合で会議に参加できなかった回が多く申し訳なかった。そのためのはずれの意見等もあるかもしれないが、事情をくみとってご容赦を願いたい。この5年間、毎年のように社会情勢が大きく変わっている印象がある。そのため、「計画にあることは何かが何でも実施するが、計画に無いことは基本的に実施しない」ではなく、「計画上はこうだったが技術革新や環境の変化、制度改正等でこうした方がよりよいことがわかれば、5年も待たずにどんどん変えてもいい」という柔軟な表現が計画にあってもよい気がする(手段や方法を変えてより効率的・効果的にするという意味であって、目指す方向を変えるという意味ではない)。
13	人口減少の最大の原因は、若者が定着できる職場が少ないということであり、そのための雇用確保に向けて現在、どのような取組をしているのか、情報をできるだけ市民と共有してほしい。また、新たな産業の導入に向けて、市民と協働で取り組むことが大切だと思う。美唄を去っていく若者の多くは、現実に首都圏で活躍しているケースもあり、企業に関する情報収集は市民サイドからだって得られるはずだから。

美唄未来会議・部会編成

全 体 会 議

正副部会長会議

委員 長：谷村 明紀
副委員長：土肥 康子

第1部会

1 人と情報が行き交いにぎわいが生まれるまちづくり(産業・観光・公共交通・情報など)

第2部会

2 人と文化を育み交流が広がるまちづくり(子育て支援・教育・芸術文化・男女共同参画)

4 誰もが健康でいきいきと暮らせるまちづくり(保健・医療・福祉)

第3部会

3 豊かな景観あふれるエコロジーなまちづくり(自然保護・ごみ)

5 安全で安心して住めるまちづくり(防災・防犯・消費者保護・雇用対策・コミュニティ)

6 みんなで力を合わせるまちづくり(協働のまちづくり 3部会共通)

石川 弘樹
奥山 敦史
小野 栞 (市)
小野 登
工藤 賢 (市)
工藤 宏章
小林 篤 (市)
齋藤 隆徳 (市)
篠原 真希
杉田 佳寿也 (市)
巽 健 (市)

◎ 土肥 康子

○ 永井 仁

長谷川 彰徳
東岡 博之 (市)
広瀬 公一
福田 征機
星野 悟
丸山 徹 (市)
矢部 昭文 (市)
山田 道康

21人

石垣 晶子 (市)
加藤 セツ子
工藤 由季夫 (市)
小林 康二 (市)
柴田 生雄 (市)
城下 紀幸
鈴木 沙綾 (市)
高橋 正子
谷川 謡子 (市)

◎ 谷村 明紀

椿原 亨
成田 和幸 (市)
板東 知文
乗田 胡桃 (市)
三宅 智英美
森 弘隆

○ 山本 牧伯

吉田 譲
林郷 誠司

19人

大山 敏之 (市)
久保田 和男
児玉ゆかり (市)
後藤 基公 (市)
○ 清水 玲
高瀬 謙二郎
高橋 雄大 (市)
高柳 和亨 (市)
田中 悟
谷内 八重子
橋本 雄太郎 (市)
藤原 誠二 (市)
◎ 堀田 智子
宗片 理之 (市)
門田 修司 (市)
山口 重蔵
山田 貴士
蓬田 昌広 (市)

18人